

2016年2月7日

福音書からのメッセージ

すると、「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」と言う声が雲の中から聞こえた。（ルカによる福音書9章35節）

イエス様は、今日の箇所のあるルカによる福音書の9章22節で、このような言葉を言われました。

「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」

今日の箇所は、イエス様がこう伝えてから八日ほどたったときの出来事です。イエス様の言葉を、何度も弟子たちは思い返していたでしょう。しかしイエス様はその意味を伝えることなく、祈るために山へ登られます。ペトロ、ヨハネ、ヤコブという三人の弟子たちを連れて。

イエス様に連れてこられた弟子たちは、イエス様の顔の様子が変わり、服が真っ白に輝いてモーセとエリヤと語り合っている姿を見ます。

三人が語り合っていた内容は、イエス様がエルサレムで遂げようとしておられる最期についてでした。エルサレムで起こる一連の出来事、十字架に始まって、復活、昇天に至るまで、その神さまからの約束が成就するという話を語っておられたのです。

イエス様を通して、神の国の先取りを垣間見たペトロは言いました。「仮小屋を三つ建てましょう」と。ペトロはイエス様と共に、そこに留まりたかったのでしょう。しかしそれはイエス様の望まれることではありませんでした。



イエス様は、再びいつもの姿に戻られて、山を下りていきます。ふもとには大勢の群衆がいました。イエス様にいやして欲しい、イエス様の言葉を聞きたい。希望を見失い、イエス様にすぎるしかない人たちが

そこにいました。そしてすべての人たちのために、わたしたち一人一人のために、イエス様は十字架の道を歩むために、山から下りてこられるのです。

そしてイエス様に従うわたしたちも、山に留まってはいけないのです。イエス様と共に、山を下りるのです。礼拝の終わりに、わたしたちは派遣の言葉を唱えます。「ハレルヤ、主と共に行きましょう。ハレルヤ、主のみ名によって」。その言葉によって、わたしたちはそれぞれの地に遣わされるのです。

十字架へと歩まれるイエス様の道の後を、自分の十字架を背負ってついて行く。苦しいこと、辛いことも多くあるでしょう。しかしその時に、思い出しましょう。イエス様が示してくださった、十字架の向こうにある約束を。わたしたちを生かすために罪を贖い、復活して共にいてくださる、イエス様のその姿を。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>